

娘と私にできること

私には、生徒会の役員を務めている中学2年生の娘がいます。ある日、娘からこんな話を聞きました

娘の話

この前、友だちが「も～、こんなこともできん。私『ガイジ』やん」って言ったの。お母さん、『ガイジ』って言葉、知ってる？『障がい児』っていう言葉の一部で、相手を攻撃したり、自分ができなかった時などにこの言葉を使って自分が劣っているように見せたりする子がいるんだ。こんな言葉よくないし、なくさないといけないとは思って、その場では誰も何も言えなかった。

その時ね、Aさんが泣いてたんだ。Aさんには『障がい』のある弟さんがいるんだって。だから、毎日一緒に生活している弟さんのことや、一生懸命に育てているお父さん、お母さんの顔が浮かんで悲しかったのだと思う。こんな言葉はなくさないといけないよね。それで、先生たちにも相談して、生徒総会で全校生徒に呼びかけることにしたの。

当日は、生徒会の役員が全校生徒の前で、自分も発言したことがあってとても後悔していること、わかっているつもりでも、本気でなくそうと思ってなかったことなど反省する言葉を言った。それから「私たちは、こんな言葉は絶対に使わない。みんなできなくしていきましょう。」と呼びかけたんだ。そしたら、聞いていたみんなも、それぞれが考えていること、感じたことを発言してくれた。Aさんも、手を挙げて、「これまでこんな言葉は嫌だと思っていたけど、何も言えなかった。でも、黙っていることも発言を許しているのと同じだって気づきました。これからは、だめなことはだめだと言いたいと思います。」と言ってくれた。

私、絶対こんな言葉はなくしていこうと思ったよ。

心豊かな社会のために

私は、娘の話を聞いて、子どもたちの行動力のすごさに感心するとともに、『ガイジ』のような人を差別する冷たい言葉が、子どもたちの間で使われていることに驚きました。そして、私自身の言葉は娘にどう受け止められているのだろう？と考え、無意識に人を差別したり、思いこみで話したりしていないか、あらためて自分の言葉を振り返りました。

子どもの発言や行動、考え方は大人の世界をそのまま反映していることがあります。こんな冷たい言葉のない社会にしていくために、子どもたちが立ち上がったのならば、大人である私も何かやらなければ、と思います。

